

第55回新潟高血圧談話会

日 時 平成26年11月21日(金)
午後7時～
会 場 有壬記念館 2階

I. 一般演題

1 経皮的腎動脈形成術により著明に改善した片側腎動脈狭窄、腎血管性高血圧症の1例

大塚 忠司・酒巻 裕一*・山本 卓*
金子 佳賢*・成田 一衛*・高野 徹**
堀井 陽祐**・吉村 宣彦**

立川総合病院 腎臓内科
新潟大学医歯学総合病院
腎・膠原病内科*
同 放射線診断科**

症例は72歳, 男性.

【主 訴】下腿浮腫.

【現病歴】X-37年, 健診で高血圧を指摘され, 近医で内服加療を開始した.

X-I年8月頃より, 家庭血圧が著明に上昇し, カルシウム拮抗薬が開始されたが, コントロール不良であった.

X年1月初旬より両下腿の浮腫が出現し, A病院を受診.

1月10日 Cre1.96mg/dl, 1月22日 Cre2.29mg/dlと腎機能は急速に増悪した. ACE阻害薬が追加され, 家庭血圧は改善したが, 2月4日 Cre3.34mg/dlと更に増悪した. 単純CTでは左腎がやや萎縮し左腎動脈の著明な石灰化あり. レニン活性の上昇を認め, 腎血管性高血圧が疑われた.

2月10日, 左腎の腎生検を施行され, 二次性巣状分節性糸球体硬化症と診断された.

3月4日, 当院に転院し, 3月14日, 経皮的左腎動脈形成術を施行した. スtent留置にて左腎動脈の狭窄前後の圧格差は消失した.

3月19日, Cre2.45mg/dlと腎機能は改善傾向を示し, レニン活性も低下した.

退院後も腎機能改善効果は持続している.

【考察】腎動脈形成術はCORAL試験では効果は否定的とされたが(N Eng J Med 2014), 本症例のように高レニン血症の解除により著明な腎機能改善効果を期待できる症例が存在することも考慮する必要がある.

2 機能的食品と血圧

渡辺 賢一・Vivian Setikno
Rejina Afrin・Somasundaram Arumugam
Vengadesh Karuppagounder
Rajarajan A. Thandavarayan
Vigneshwaran Pitchaimani
Remya Sreedhar・張馬 梅蕾・結城 智史
鈴木 浩史・宮下しずか・野本真由美
中村 隆志・古賀 祐介

新潟薬科大学薬学部臨床薬理学

高血圧治療に生活習慣修正や薬物治療だけでなく, 栄養素・食品・特定保健用食品(トクホ)が注目されている. 野菜・果物・低脂肪乳製品が豊富なDASH食(飽和脂肪酸とコレステロールが少なく, Ca・K・Mg・食物繊維が多い)は有意な降圧効果が認められている. DASH食の意義は, 降圧効果が弱い栄養素でも組み合わせると有意な降圧が期待できるという点にある. DASH食と類似の地中海ダイエットも降圧・心血管リスクの改善が報告されている. 魚油に多く含まれる ω 3多価不飽和脂肪酸の摂取にても降圧が認められる. 特定保健用食品(血圧が高めの方への食品)の関与成分は, カゼインドデカペプチド・鯉節オリゴペプチド・ゴマペプチド・サーデインペプチド・海苔オリゴペプチド・ラクトリペプチド・わかめペプチド・イソロイシルチロシン(ACE阻害作用)やガンマアミノ酪酸(γ -aminobutyric acid, GABA)・杜仲葉配糖体(交感神経抑制作用)などが有る.

我々は, GABA・リンゴ酢含有飲料水の血圧に及ぼす作用と安全性を検討した. 対象は, 至適血圧・正常血圧者(収縮期血圧130mmHg未満かつ拡張期血圧85mmHg未満. N群.)と, 未治療正常高値血圧者(収縮期血圧130-139mmHgまたは